

辻堂まちづくり会議
地区全体集会報告

(開催日時) 2019年(令和元年)12月7日(土)

9:30~12:20

(開催場所) 辻堂市民センター ホール

(参加者) 72人

内 訳

一般参加者	36人
パネラー	4人
おまめ隊	7人
まちづくり会議	18人
事務局	6人
小野副市長	1人

1 開会 おまめ隊による開会宣言

2 主催者あいさつ

辻堂まちづくり会議 尾崎会長

3 委員の紹介

当日出席の各委員紹介

4 辻堂まちづくり会議の活動報告

広報委員会

→吉田委員長より活動報告を実施

くらし安心・安全部会

→石井部会長より活動報告を実施

辻堂交流部会

→関岡副会長より活動報告を実施

※ 時間が押していたため、質疑応答は省略

5 パネルディスカッション「辻堂の子どもたちの未来」

・パネリスト

遊びリパーク リノア

&MAMACO 代表理事

副理事

高浜地域子ども支援会議 会長

横川 敬久 氏

前川 知佳 氏

根上 貴子 氏

今福 美佐子 氏

藤沢市社会福祉協議会 C S W 北野 範之 氏
 ・コーディネーター
 辻堂まちづくり会議 会長 尾崎 文彦 氏

<自己紹介>

遊びリパーク リノア 横川氏 リノアは医療ケアや車椅子が必要な、子どもたちの遊び場です。また、まちづくり会議の委員としても活動しています。 障がいのある子どもは一般の子と遊ぶ機会が少ない。そのため、リノアは障がいのある子も来るが、一般の親子も遊びに来れる施設になっている。障がいの有無にかかわらず、お互いに関心を持って遊べるようになっている。
一般社団法人&MAMACO 代表理事 前川氏 副理事 根上氏 「&」とは様々な個人・団体と共に歩んでいきたい、「MAMACO」とはお母さんと子どもという意味があります。 &MAMACOは、女性が働きやすい社会・子育てがしやすい社会を目指しています。その中で4つの柱を立てています。「1 女性活躍支援」「2 子育て・教育」「3 地域活性」「4 社会貢献活動」の4つを柱に様々な事業を行っています。
高浜地域子ども支援会議 会長 今福氏 高浜地域子ども支援会議は、学校・家庭・地域の三者からなる「三者連携ふじさわ」の中の一つとして、高浜中学校区を中心に活動しています。学校の先生やPTA、青少協や民生委員児童委員等が委員となっています。 今年度は、子どもフェスティバルへの出店や、高浜地域ふれあいコンサート、ボッチャ体験会等を行っています。
C S W 北野氏 藤沢市社会福祉協議会で辻堂地区のC S Wをやっている。C S Wは市内11地区で藤沢市の委託を受け活動している、地域の困りごとに対する相談員です。 地域には様々な相談窓口があり、どこに相談していいかわからない事があるが、どんなことでも相談できる窓口として、活動している。

・趣旨説明 尾崎会長

辻堂公民館まつりの際に、子どもたちに辻堂のまちについてのアンケートを実施した。結果として、ほとんどの子どもたちは辻堂が好きという結果がでた。しかし、そのうち将来も辻堂に住みたいかという質問に対しては、少し数字が落ちる結果となっている。

そのような現状も踏まえ、子どもたちが住みやすいまちについて、話し合っていきたいです。

<パネルディスカッション>

発言者	内 容
質問 尾崎会長	本日は子どもがテーマになっていますが、皆さんが考える現状の課題と、その課題に対する今後の取り組みについて教えてください

	さい。
リノア 横川氏	今後5年・10年後には、障がいのある方々はより社会に出てくると思われる。現に茅ヶ崎市では知的障がいのある子どもが他の子と同じように学校に通うという取り組みを行っている学校もある。社会的にも障がい者雇用率という言葉もあるように、積極的な採用が取り組まれている。 その際、大人になってから初めて障がい者と関わるのではなく、小さいころから遊びの中で、障がいのある子と関わる機会を作っていきたいと考えている。
&MAMACO 前川氏 根上氏	4つの柱のうち「地域活性化」「子育て支援」という観点から、「子育てフェスタ」を開催している。その一つの理由として、不登校問題を考えている。ここ数年、小中学生を中心に不登校という問題が出てきている。今までは「不登校＝学校が悪い(いじめ)」というイメージがあったが、現実には「無気力」等が理由となっている。将来の夢がない子ども等が増えてきている。 そこで「キッズお仕事体験」というイベントを実施し、少しでも将来やりたい仕事等を見つけてほしいと思っている。また、不登校の場合も、必ずしも学校に行かなければいけないわけではなく、家の中で何が出来るかを見つけてもらいたいと考えている。 もう一つの問題として、母親が一人で子育てをしている家庭が多いということ。夫や周りが忙しく、子育てが出来ないため、母親に負担がかかってしまうという現状がある。 そのような家庭が増えてしまうと、母親による虐待につながってしまう等の問題も発生してしまう。また、子どもと二人きりの時間が多くなり、悩みをもってしまう母親も増えている。この現状を一人でも多くの人に知ってもらいたいと思い、活動をしている。
高浜地域子ども 支援会議 今福氏	数名で集まり、道路の片隅で携帯ゲームをしている子ども等も増えてきている。この先、SNS等により顔も知らない人たちとつながっていく子どもが増えてくるのではないかと考えている。 そこで私たちは、人と人が顔を見合わせる大切さを子どもに教えていこうと思っています。そのためには、先ずあいさつを行うこと。それにより、相手の気持ちがわかる心を育てていきたいと考えています。学校・家庭・地域で顔が見える関係を作り、あいさつを交わすことができる地域を作っていきたい。
CSW 北野氏	辻堂地区は、子どもに関する相談が他地区と比べ非常に少ない。これは、辻堂地区は明るくいい街というイメージがあるため、相談しにくく内に秘めてしまっている子どもが多いのではないかと考えている。

	そのような子どもたちが相談しやすい場所づくり、環境づくりを意識して、CSWの活動を行っていきたい。 別地区の事例だが、母親が亡くなり、一人暮らしになった高校生がいた。その子は、隣人や地域の方々の協力により、卒業までその地域で暮らすことが出来、卒業後親戚のいるところへ行った。辻堂地区は転入者が多い地区だが、そのような温かい地区にしていきたいと思っている。
質問 尾崎会長	地域の子育てについて、それぞれの目線で、地域の方々にどのように参加してほしいか、関わってほしいか教えてください。
横川氏	子どもにあいさつをなささいという前に、大人同士があいさつしていないのではないかと、思っている。まずは自分たちからあいさつをしないと、子どもたちはあいさつしない。 ただし、大人が先にあいさつをしてしまうと、子どもたちはつられてしまうので、一緒にあいさつすることを心掛けてほしい。
前川氏	今の子どもたちは、周りの大人や同学年の子どもたちにも気を使っている。客観的には「良い子」だが、もっと喧嘩などの「コミュニケーション」を取ってほしいと思っている。 地域の方々も、子どもとコミュニケーションをとってほしい。
根上氏	いまの子どもたちは、居場所がない子どもが多いので、居場所を作ってあげてほしい。
今福氏	辻堂は明るいまちなので、それに似合う笑顔が多い子どもが増えてほしいです。
尾崎会長	三者連携は、学校・家庭・地域の三者だが、家庭の部分は参加協力をしにくい現状がある。本日来ている今福氏の顔を覚えて、三者連携事業にも積極的に参加してほしい。
北野氏	引きこもりや不登校の子どもたちの一番の問題は地域との関わりが薄くなってしまうこと。ぜひそのような子がいたら、CSWに相談していただきたい。そうしていただければ、学校に行かなくても地域と関われるきっかけを作ってあげることができる。
尾崎会長	母親だけでなく、父親や地域も家庭・子育てに参加できるようになるためには、どのようにしていけばよいと思いますか。
横川氏	周りに助けてもらう・周りを助けるというのが重要である。自分の弱さを見せることで、周りが助けてくれると思うので、自分をもっと出していくことが大事だと思う。
前川氏	コミュニケーションを取り合うことが重要だと思う。女性の考える子育てと男性が考える子育ては差異があるため、そこを埋めるためにコミュニケーションを積極的にとってほしい。
今福氏	家庭内のみの子育てとなってしまうがちなので、隣人や地域の

	方々とのコミュニケーションを多く取ってほしい。
北野氏	地域のことや人に対し、しっかりとアンテナを張ることだと思う。日本人は「助けて」という声をあげる人が少ない。それに対し、アンテナを伸ばして気にかけてほしい。

<質問・意見>

◎子どもの目線を持てている大人が少ないのではないかな。子どもが外でゲームをするのがおかしい、という目線でなく、子どもたちの文化などを理解してあげることが大切だと思う。

あいさつを返してくれない・楽しんでいない大人を見てしまうと、地域への愛着がなくなってしまう。その結果として、子どもが大人をみて、ここで暮らしたい、と思う子どもが少なくなるのではないかな。

例えば、外に出てあいさつするだけでなく、「なぞなぞが書かれた板」をもって立つ等、お互い対話が生まれる仕組みを作ればよいのではないかな。

大人が考える美化キャンペーン等に子どもを参加させるのではなく、子どもが何をしたいか、何が必要かをリサーチして、事業を行う必要があると思う。

◎保育の仕事をしているが、障がいのある子どもと触れ合うことがない。障がいがある人がいるということをどのような言葉で説明すれば良いのか。

→ 大人から教えるのではなく、子ども自身に「少し違うところがある人がいる」ということを気付いてもらうことが重要である。そのため、攻撃的な行動がない限りは特別何かをする必要はないのではないかな。

<7分間休憩 ワークショップの形に椅子を移動>

6 ワークショップ「辻堂の子どもたちの未来 ～今、私たちにできること～」

・吉田委員から進行説明

それぞれにまちづくり委員・パネラーを加えた8つのグループに分かれる。

3人一組で10つのテーマから1つ選び、7分間意見交換を行う。グループ内でメンバーを入れ替えながら3回繰り返す。

<各グループで自己紹介>

<ワークショップ実施>

<意見・感想等>

・交通安全対策について:辻堂地区は歩道が狭い箇所が多い。そこで対面からすれ違い、譲り合う際に、一言「ありがとうございました。」というようにしてる。そうすることで、

お互い顔を見て対話することができる。

・子どもの居場所について：子どもを預かる施設はあるが、子どもが行きたがらない。施設内の行動等に対して多く規制をしているので、子どもが息苦しくなっている。しかし施設側からすると、何かあったときのために、規制をしなければならない。結果として、地域から子どもが離れていってしまっている。

・子どもたちの意見を聞き、やりたいことを吸い上げて実施していくべき。公共施設や児童館等に自由な落書きスペース等を作ってあげて、子どもの自由な意見を書いてもらう等してもよいのではないか。

7 閉会

辻堂まちづくり会議 小川副会長

以 上

